令和５年「まほろば会秋の見学旅行」資料

琵琶湖周辺の旅（国宝「彦根城」・湖東三山）

令和５年１１月１７日（金）～１１月１８日（土）

まほろば会

はじめに

　秋の見学旅行は何と4年ぶりですね。前回の見学旅行は「上野国・越後国遺跡巡りの旅」と銘打って「上野三碑（こうずけさんぴ）」そして「縄文土器としては初の国宝」である「火焔型土器」を出土した「笹山遺跡」の見学などをしました。その後すぐに「コロナ禍」で、まほろば会の各行事がことごとく中止（あるいはリモート企画）になりました。

　まほろば会の行事としては、7月7日の「総会ならびに暑気払いの会」に次いでの企画です。

　今回の見学旅行先は、「琵琶湖周辺を訪ねる」と「ご案内」でもPRした通り、紅葉満載の湖東を重点的に訪ねます。ただ、残念ながら通常の２泊3日から「1泊2日」のコンパクトな「旅」となりました。

　旅行初日は、国宝「彦根城」をじっくり見学します。何度も行ったことがある方も多いと思いますが、今回は「ガイドさん」も付けてじっくりと見て回ります。彦根城は、別名「金亀城（こんきじょう）」と言われ、江戸時代の慶長9年（1604年）に井伊直継によって築城が開始され、兄の後を継いだ弟の直孝によって完成された平山城です。
琵琶湖に臨む「井伊家14代の堅城」見学を楽しみましょう。

二日目（最終日）は、ちょっと早めに宿泊先のホテル（サンルート彦根）を出発して、バスで「湖東三山」（日本の紅葉名所百選：すべて天台宗の寺院です。）を巡ります。

先ずは「西明寺（さいみょうじ）」。西国四十九薬師霊場の第三十二番札所（滋賀四番札所）で、平安時代初期の承和（じょうわ）元年（834年）に、三修上人が仁明天皇の勅願により開設されたと「寺伝」に書かれています。天台の古刹で、本堂は鎌倉時代の代表的な建造物で「国宝第一号」（「寺伝」にはそう書かれていますが、83番目では？指定番号第一番は「中尊寺金色堂」）に指定されています。

次は「百済寺（ひゃくさいじ）」。近江西国三十三観音霊場の第十六番札所（滋賀九番札所）で「今から1400年前の推古14年（606年）に、渡来人のために聖徳太子さまが創建された最古刹」と「寺伝」には書かれています。境内は「国の史跡」に指定されています。

三山の最後は「金剛輪寺」。近江西国三十三観音霊場の第十五番札所（滋賀三番札所）で、奈良時代の中頃、天平13年（741年）に聖武天皇の願いにより行基菩薩が開山されたと「寺伝」に書かれています。本堂は鎌倉時代の代表的な和様建造物として「国宝」に指定（第82番）されており、また、11月中旬から下旬にかけて境内一円が鮮やかな紅葉に彩られ、特に本堂周囲と庭園内の紅葉は「血染めのモミジ」と称されるほどの真紅に染まるとのことです。乞うご期待！そして、何とその境内にある「華楽坊（からくぼう）」での昼食です。

見学地の「とり」は、髙川幹事推薦の「鴨稲荷山古墳」（高島歴史民俗資料館）。古墳時代後半（6世紀前半）に築造された「前方後円墳」を見学します。

１泊２日の、会としては珍しくコンパクトな「まほろば会 琵琶湖周辺を訪ねる旅」を十分にご堪能ください。

幹事一同

令和5年度　まほろば会秋の見学旅行（琵琶湖周辺の旅）予定表

＜日程＞　令和5年11月17日（金）から18日（土）までの1泊2日の旅行です。

＜集合＞　11月17日（金）11時20分に　JR東海道本線 彦根駅「彦根市観光案内所」前（彦根駅西口1階のそと）に集合します。

＜昼食＞　全員集合の後、宿泊地であるホテル「サンルート彦根」まで徒歩1分。ホテルに手荷物を預けてから、同ホテルで「昼食」をとります。
※昼食後、下記「見学予定地」を回ります。

＜解散＞　11月18日（土）17時ごろ「JR大津駅」にて解散します。

＜見学予定地＞

11月17日（金）	国宝「彦根城」	滋賀県彦根市金亀町１－１	℡0749-22-2742
（宿泊地）	「サンルート彦根」	同　旭町9-14	℡0749-26-0123
11月18日（土）	西明寺	同　犬上郡甲良町大字池寺26	℡0749-38-4008
	百済寺	同　東近江市百済寺町323	℡0749-46-1036
	金剛輪寺	同　愛知郡愛荘町松尾寺874	℡0749-37-3211
（昼食）	金剛輪寺境内「華楽坊（からくぼう）」	同上	℡0749-37-3211
	鴨稲荷山古墳	同　高島市鴨2249	
	高島歴史民俗資料館	同　鴨2239	℡0740-36-1553

国宝 彦根城①

彦根城築城は、将軍徳川家康の命により佐和山城を一掃するため、慶長9年（1604）より着工されました。当初は湖畔の磯山を予定していたといわれていますが、直継の代になって現在の彦根山に決定し、20年の歳月をかけて築城されました。

天守は大津城から、天秤櫓は長浜城から移築。天守は2年足らずで完成しましたが、表御殿の造営、城郭改造など、城郭の完成は1622年とされています。 この間、井伊直孝は大坂冬の陣で兄直継に代わって出陣し、その功績によって家督を継ぎ、夏の陣では豊臣方の木村長門守重成と戦い大功をあげ、井伊直政（常に先鋒を務め、徳川四天王のひとり）に劣らぬ武将と賞賛されました。
直孝は、秀忠、家光、家綱の三代にわたって、将軍の執政となり、幕府政治確立にも貢献。これらの功により3回加増され、譜代大名としては例のない30万石となる。彦根35万石といわれるのは、このほかに幕府領5万石の預かりがあり、合わせて35万石となります。天守は18万石の頃の完成でした。
彦根城は、明治に解体の危機にみまわれました。しかし、今も往時の面影が今日によく残っているのは、明治天皇が明治11年10月、北陸巡幸を終え、彦根を通られたときに、保存するようにと大命を下されたからでした。
一説には、随行した参議大隈重信がその消失を惜しみ、天皇に奉上したとする説。 また一説には、天皇が近江町長沢の福田寺で小休止されたとき、住持攝専（せっせん）夫人で、天皇の従妹（いとこ）にあたるかね子が奉上したとも言われています。
近世の城で天守が残っているのは、弘前、松本、犬山、丸岡、彦根、姫路、備中松山、松江、丸亀、松山、宇和島、高知の12城。このうち、松本、犬山、彦根、姫路、松江の5城の天守は国宝です。

国宝 彦根城②

彦根城は、平成8年には築城以来5回目の大改修が完了。天守の34種類約6万枚にも及ぶ屋根瓦の吹き替えと白壁の塗り替えが中心に行われ、現代に美しく蘇っています。また、彦根城の周囲は特別史跡に指定されています。

以上は、「彦根城公式ホームページ」からの抜粋です。

慶長5年の関ケ原の戦いは東軍の勝利に終わり、その戦功によって徳川四天王の随一と言われた井伊直政は、石田三成の所領であった江州佐和山を与えられ、上州高崎城から佐和山城に移りました。そして、佐和山の西にある「磯山」への移転を計画しますが、関ケ原の戦いで受けた戦傷の悪化によって、直政は慶長7年に急逝してしまいます。幼少の嫡子直継があとを継いだ後も移城の構想は引き継がれましたが、移城先は「金亀山（彦根山）」に変更されて、慶長8年いよいよ「彦根城」がその築城に着手されたのです。

彦根城の築城には、山地が琵琶湖に迫り水陸の交通の要衝であったこの地の守備を重視するとともに、石田色を払拭したいという徳川幕府の意向が強く働いたようで12大名に協力を命じるなど、幕府の全面的な支援のもとで突貫工事が行われました。そのためか他城からの移築建物が多い。「天守・附櫓・多聞櫓（すべて国宝）」ともに「大津城」から移築されたものです。また、「天秤櫓（重文）」は「長浜城」から、「太鼓門（重文）」は「佐和山城」から、「西の丸三十櫓（重文）」は「小谷城」からの移築とされています。

とにかく、ここ「彦根城」は見所が多いですね！

2017年12月9日（再放送：2023年6月22日）に、NHKで放映された「ブラタモリ（彦根がいい）」をご覧になった方も多いのではないでしょうか？ご多分に漏れず、かく言う私（天野）も何度も見返しました！

戦国大名にとって、この地「彦根」は大事な場所であった！したがって、「この地を誰に任せるか」に天下の傾城がかかっていた。つまり「織田信長は丹羽長秀」に「豊臣秀吉は石田三成」に、そして「徳川家康は井伊直孝」に、という具合だったのです。

国宝 彦根城③

「彦根城」と「佐和山（城）」の距離は、たったの1キロ。今回の見学では、そこのところも確認したいですね。
先ず、「彦根城」の防御は鉄壁と言われている「場所」（理由）を確認しましょう。

１．「内堀」「何重もの石垣」に囲まれた「鐘（かね）の丸」
２．まっすぐだらだらと続く登り坂の石段は「大手道」と呼ばれ、当時重い甲冑に身を固めた兵隊にとっては、相当きつかったことを実感しましょう。
３．「天守」が見えてきましたが、ここが一番の難所。四方八方から城の防御兵が鉄砲で侵入者を狙い撃ち。ほぼ全滅！
４．何とか狙い撃ちを潜り抜けたとしても「天守」に辿り着くには、何と「橋」を渡らなければなりません。この「橋」、いざという時には「落とすようになっていた」ということで、とてもとても攻め落とすことなど不可能だったようです。

いくつもの艱難辛苦を乗り越えて、とうとう「天守」まで辿り着いたとしましょう。しかし、そこでまた鉄壁の防御の理由が顔を出します。

５．「天守」に施されている「破風（はふ）」の仕掛けです。外から見ると綺麗な「白壁の破風」としか見えないのですが、何とこの破風に70か所以上の「狭間（さま）」が仕掛けられているのです。

次に確認しておかなければならないポイントは、彦根が「交通の要衝」であったこと。「中山道」「北国街道」が交わるまさに交通（物流）の要衝で、西側は「琵琶湖」に、東側は「鈴鹿山脈」に挟まれたとても狭い場所であったことです。

そして、当時は北側も「松原という入江（内の湖）」（東京ドーム15個分の広さ）が有り、物資の運搬（主に「米」）に重要な役割を果たしていたのです。そのうえ、南側には「芹（せり）川」が流れていたのですが、その蛇行した流れをまっすぐな流れに付け替え、湿地から宅地に変えてそこに「足軽屋敷」を大量に建築したのです。

自由時間に是非散策しましょう！

湖東三山①

湖東三山（ことうさんざん）は、滋賀県湖東地方の西明寺、金剛輪寺、百済寺の三つの天台宗寺院の総称。琵琶湖の東側、鈴鹿山脈の西山腹に位置し、百済寺の南東に位置する永源寺と共に紅葉の名所として知られている。
室町時代には、敏満寺（犬上郡多賀町敏満寺）、大覚寺（東近江市大覚寺町）と合わせて湖東五山として栄えたが、応仁の乱や織田信長の焼き討ちによって衰退。敏満寺を除いて江戸時代以降それぞれ復興したが、そのなかで広い寺域を保ち、紅葉の名所として著名な西明寺・金剛輪寺・百済寺だけが湖東三山と称されるようになった。（下表とも、Wikipediaより引用）

山号	寺号	本尊	開基	所在地
龍應山	西明寺（さいみょうじ）	薬師如来	三修上人	犬上郡甲良町池寺
釈迦山	百済寺（ひゃくさいじ）	十一面観音	（伝）聖徳太子	東近江市百済寺町
松峯山	金剛輪寺（こんごうりんじ）	聖観音	（伝）行基	愛知郡愛荘町松尾寺

【西明寺】

西明寺は、平安時代初期の承和元年（834）、三修上人が仁明天皇の勅願により開創され、「日本100の古寺」「近江水の宝」アメリアのニュース専門放送局・CNNのウェブ特集において厳島神社、金閣寺とならび「日本のもっとも美しい場所31選（Japan’s 31 most beautiful places）の中に選ばれた天台の古刹です。
本堂は鎌倉時代の代表的な建造物で、国宝第一号に指定されています。
本堂内には秘仏本尊薬師如来（重文）、釈迦如来（重文）、不動明王（重文）などが安置され、なかでも頭に十二支の動物の頭を乗せた十二神将はユーモラスな親しみやすきが特徴で、自分の生まれ年の干支（えと）の十二神将に願いを託す参拝者も多く、「えと寺」として有名です。
三重塔は総桧造りの優美な塔として国宝に指定され、初層内部に極彩色で描かれた法華経の極楽世界の壁画はまさに圧巻です。
国指定の名勝庭園「蓬莱庭」は四季折々の変化が見られ秋には境内一円に1,000本を数える楓が紅葉し、11月になると天然記念物の「不断桜」とのコントラストが楽しめます。

【百済寺】

百済寺（国史跡）は、今から1400年前の推古14年（606）に、渡来人のために聖徳太子さまが創建された近江の最古刹です。
像高2.6mの十一面観音を本尊とし御堂は百済の「龍雲寺」を模して創建され、開闢法要には高句麗僧恵慈を冗願とし、百済僧遭欽や暦を伝えた観勤も永く住したと伝えられております。その後、鎌倉時代からは「天台別院」と称され、1300人が居住する巨大寺院となりましたが、惜しくも天正元年4月11日に信長の焼討ちに遭いました。しかし、往時の姿は「石垣参道」、棚田のような「坊跡遺構」や「千年菩提樹」をはじめ樹齢数百年の巨杉、山桜、椿群から偲ぶことができます。

湖東三山②

【金剛輪寺】

金剛輪寺は奈良時代の中頃、天平１３年（741）に、聖武天皇の願いにより行基菩薩が開山されました。本堂は鎌倉時代の代表的な和様建造物として国宝に指定され、堂内には平安時代の十一面観音像をはじめ、重要文化財の仏像が数多く安置されています。また、三重塔（鎌倉時代）や二天門（室町時代）も国の重要文化財に指定され、桃山時代から江戸時代に作庭された池泉回遊式庭園は、国の名勝に指定されています。長い参道の両脇には、訪れた人々を山上の本堂まで導くかのように千躰地蔵尊が鎮座されます。庭園を中心に春は山桜やシャクナゲが、新緑と青モミジの季節から夏にかけては紫陽花や睡蓮が咲き誇ります。１１月中旬から下旬にかけては、境内一円が鮮やかな紅葉に彩られ、特に本堂周囲と庭園内の紅葉は「血染めのモミジ」と称されるほど、深紅に染まります。

金剛輪寺本堂付近の紅葉（同寺公式フェイスブックより）

Q.2 秋にモミジが赤くなるのはなぜ？

葉には、光合成に重要なクロロフィルという、緑色をつかさどる色素が含まれています。
イロハモミジなどの樹木では、秋になって寒くなるとこれが分解され、一方でアントシアニンという色素が合成されることで、葉が赤く色づいて見えます。
ちなみにイチョウの葉などが黄色くなるのは、葉にもともと含まれていたカロテノイドという色素が、クロロフィルが減って目立つようになるためです。

https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/features/z1304_00190.html　参照

鴨稲荷山古墳の概要

２０２３年１１月１８日
まほろば会　近江旅行・資料
高川

鴨稲荷山古墳（概要）《所在地》滋賀県高島市鴨

《形状》　前方後円墳　墳丘長＝５０ｍ（推定）　※現在墳丘部は完全に滅失
《築造時期》６世紀前半（古墳時代後半）　出土した土器（須恵器）の年代より推定
《発掘経緯》明治時代には饅頭形の封土、雑木があった。

１９０２年（明治３５年）県道改修工事の際に封土を採掘したところ、石室がありその中から家形石棺（表紙写真参照：凝灰岩製の刳抜き式石棺）が発見された。連絡を受けた宮内省諸陵寮の調査が行われた。

１９２２年～２３年（大正１２年～３年）京都帝大により本格的学術調査が実施された。

主要な副葬品として金銅製冠（広帯二山式冠、写真１参照。百済と大加耶を参考に倭国独自のものを制作）、金製耳飾り（写真２参照）、環頭太刀（捻り双龍柄頭、写真３参照）、金銅製沓（くつ）、杏葉＝ぎょうよう（三葉文・馬飾り）、青銅鏡（内行花紋鏡）、魚佩＝（ぎょはい＝帯飾り）、玉類、鉄斧、刀子などがある。

※いずれもヤマト王権特有の威信材であり豪華な副葬品である。また朝鮮半島（百済、大加耶）との密接な関係を窺わせるものとして注目される。現在主な出土品は東京国立博物館に所蔵されている。

金銅製冠（写真１）

金製耳飾り（写真２）

環頭太刀（写真３）

《**被葬者の推定**》時代的、地理的な要素から見て**継体天皇（第２６代）**との関係性を挙げる説が有力である。
中でも継体の皇子であった**大郎（おおいらつ）皇子説**を支持する（下記継体関係図を参照）
継体の最初の妻であった稚子（わかご）媛との間に生まれた最初の子が大郎である。なお、大郎の経歴や没年に関する記録は遺されておらず、早世したかと考えられる。

〈主な推定理由〉

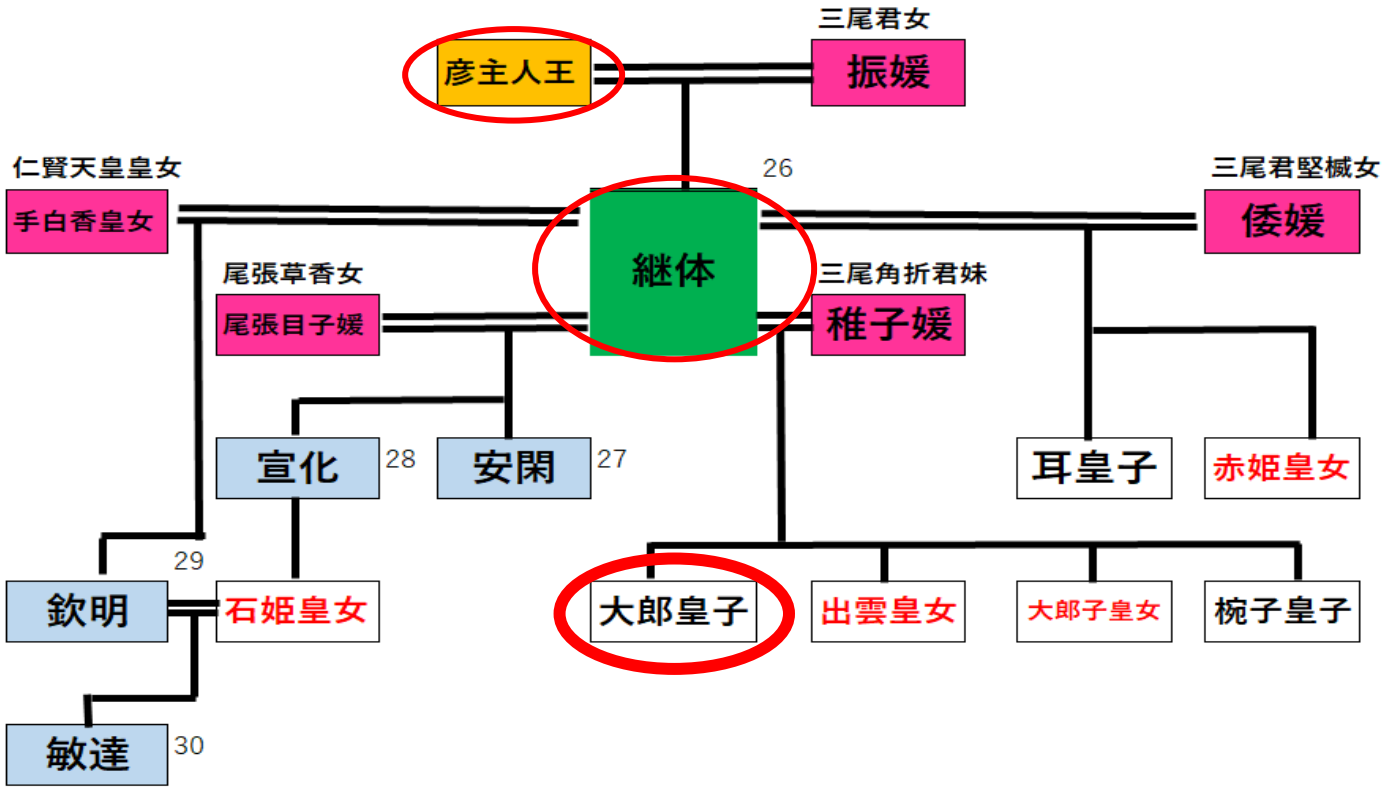
１．家形石棺には二上山産出の白色凝灰岩が使用されている。（表紙写真参照）

２．畿内型の円筒埴輪が用いられている。

※以上１，２は考古学上、畿内ヤマト政権中枢の関係者として相応しい遺物である。

３．継体は応神天皇の５世孫とされるが、その親である４世孫の**彦主人（ひこうし）王**は近江国高島郡に三尾別業があり三尾氏一族の振（ふる）媛との間に生まれたのが継体とされる。（下図参照）

※大郎皇子の墳墓（鴨稲荷山）は、継体一族の本拠地（父の故郷）に造られた、ということになる。

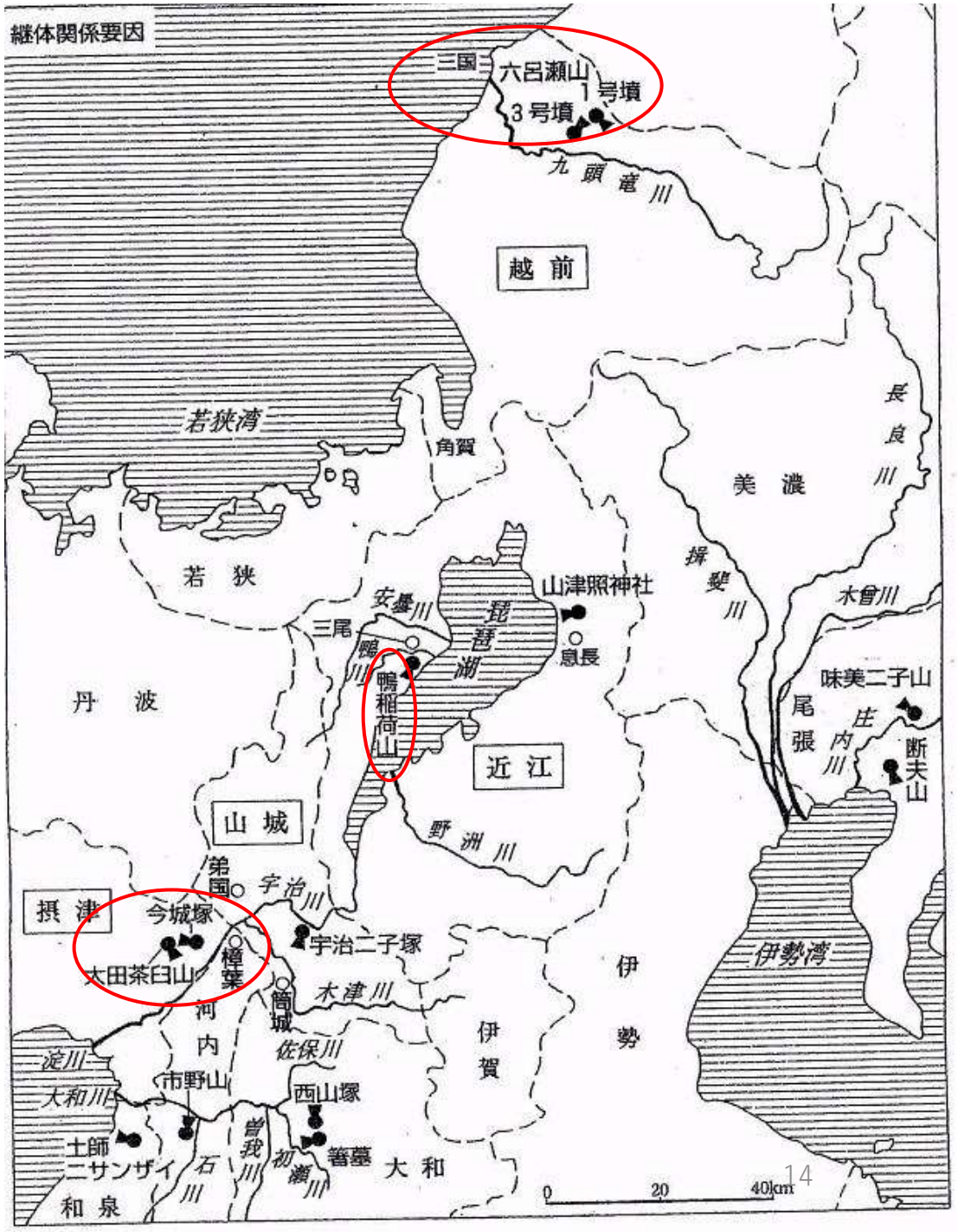


《鴨稲荷山古墳の立地》

鴨稲荷山古墳の北に安曇（あど）田中古墳群がある。
約７０基の小形円墳から成っているが、その主墳として
彦主人王陵（陵墓参考地である。別名田中大塚古墳あるいは**田中神社古墳**）がある。５世紀後半の直径５８ｍの大形円墳である。

《継体関係要図》

越前・三国地方は継体の母・振媛の生地。
摂津・太田茶臼山古墳は継体天皇陵に比定されているが、真の継体陵は近くの今城塚古墳である。



《継体天皇を巡る数々の謎》　在位（５０７年～５３１年：古墳時代後期）

１．応神天皇５世の孫？　　先代武烈天皇に世継ぎが無く、５世代も遡って推戴されたとされるが？
２．倭（ヤマト）入りが何故大幅に遅れたのか？　河内で即位後１９年間も王権中枢のヤマト入り不能？
３．継体治世下で何故多くの内外の大きな戦乱が生じたのか？
　（１）百済（武寧王）への４県割譲（５１２年）　栄山江流域の前方後円墳群との関係？
　（２）　　〃　　己紋多沙割譲（５１３年）　大加耶との関係？
　（３）筑紫君・磐井の乱（５２７年）　　乱の真相は？　百済・新羅との関係は？
　（４）大伴金村の失脚（５４０年）　　欽明朝に於いて任那（加耶）滅亡の責任を取らされたか？
４．継体天皇陵は何処か？　　現在、宮内庁は大阪茨木市の太田茶臼山古墳を三嶋藍野陵（継体陵）と比定しているが、
　間違いではないか？　　本当の継体陵は近くの高槻市にある今城塚古墳ではないのか？

※以上、主なテーマでも数多くの謎を抱えている継体天皇の時代であるが、**古文献学の学界**における定説では
現天皇家を遡る上で、最も古く確実に実在した天皇は継体だとの認識が為されている。

今城塚古墳（継体天皇陵）

左写真は修復後の現在の姿
右写真は修復前の古い姿

１９９７年～２０１１年に全面改修・整備が行われる前までは、出入りは自由であったが、墳丘は至る所で崩れ、荒れ放題であった。近所の犬の遊び場であり、周濠は釣り堀となっていた。

高島歴史民俗資料館

滋賀県指定史跡である鴨稲荷山古墳の近くに昭和５６年１０月に開館しました。
テレビなどの報道で一躍有名になった鴨遺跡の発掘の木製遺物（木簡、木沓）や市内の考古、民俗、歴史資料が展示されています。特に、鴨稲荷山古墳出土の復元宝冠と飾履は圧巻です。
また、貞観１５年（８７３）と記された農業日誌的内容の木簡は全国の注目を集めました。高級陶器や銅製印「朝」の出土は国家的祭礼が行われていたのではないかと思わせます。民具クラブによる民具の収集も膨大なものであります。

（「滋賀・びわ湖 観光情報」から転写）